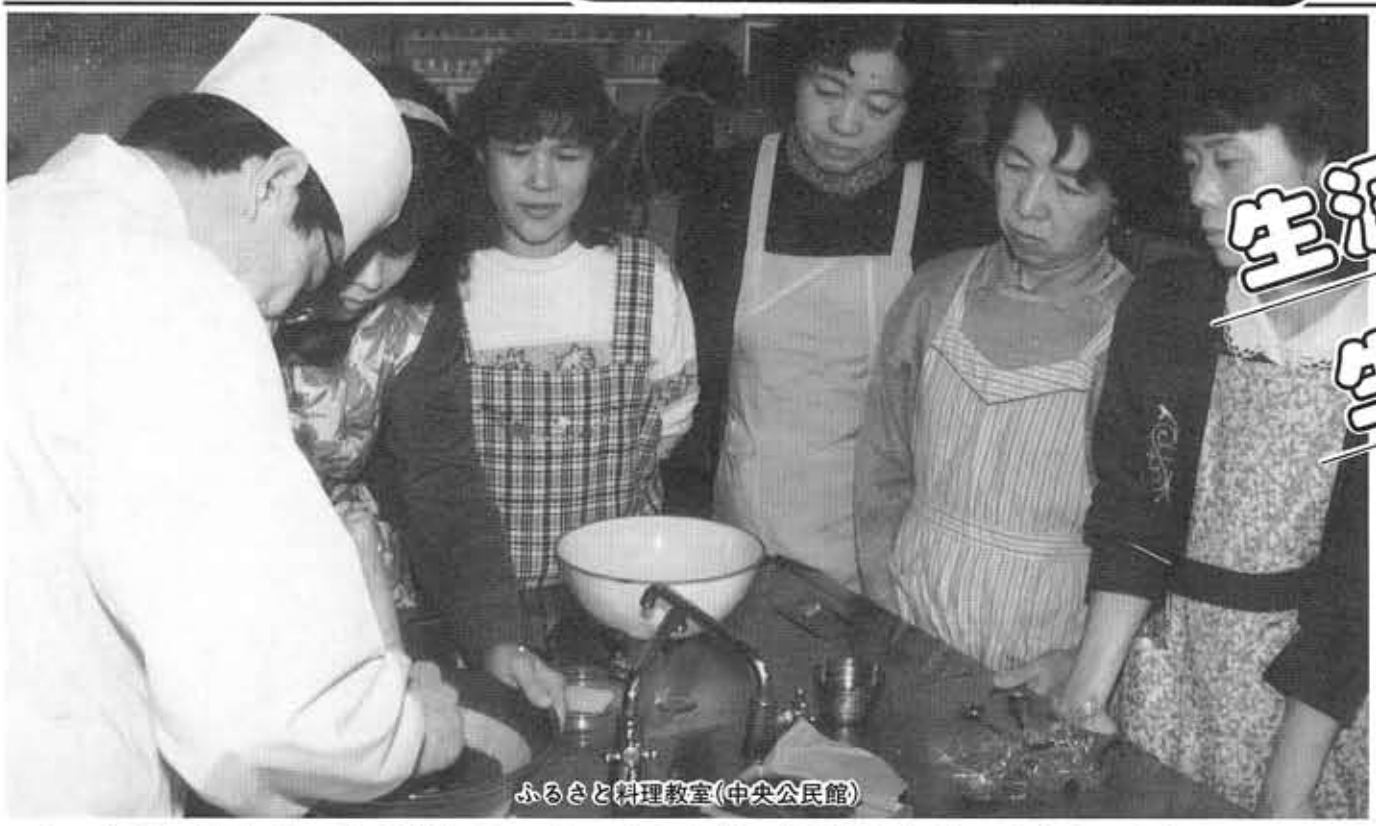
まちのうごき
面積 7.67㎢
（6月1日現在）
世帯数 17,633世帯
人口 52,968人
男 26,022人
女 26,946人
（5月中）
生まれた人 60人
亡くなった人 26人
転入した人 245人
転出した人 223人

広報向日市

No.505
平成3年(1991年)7月1日
◎発行 向日市役所(京都府向日市寺戸町中野20)
◎編集 秘書広報課 ◎電話 075(931)1111


ふるさと料理教室(中央公民館)

生きがいのある生活を

生涯学習は 生涯楽習

生涯学習は……
人から言われてするものではありません。自分がしたいと思ったときに、自発的な意思に基づいて、自分に合った方法で、いつでも、どこでも、誰にでも気軽に始められます。
あなたは生涯学習していますか。

自分の意思で

生涯学習ってご存じですか。皆さんも一度は聞いたことがあると思います。
なにか堅苦しくて難しいように聞こえますが、そんなことを考える必要はまったくありません。
生涯学習とは、一人ひとりが生きがいのある充実した生活を送るために、自分に適した手段・方法を自発的に選んで、生涯を通じて自分の意思に基づいて行う学習のことをいいます。
お茶やお花、編み物など自分の趣味に関することはもちろん、映画を見たり、スポーツをすることも生涯学習に含まれます。
「生涯学習」は、「生涯楽習」なのです。
1965年(昭和40年)にパリで開催された、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の「第3回世界成人教育推進国際委員会」で初めて「生涯教育」という言葉が使われました。
わが国においては、昭和56年(1981年)「中央教育審議会」が、国民が生涯を通じ学習し続ける社会(学習社会)の実現を目指して「生涯教育について」を答申しています。
本市では、昨年の10月末から11月にかけて京都会館一帯で開催された「第2回生涯学習フェスティバル」で、「ふるさと創生コーナー」に出展するなど、生涯学習推進事業に積極的に取り組んでいます。

グラフが示す 生涯学習への 高い関心

成人市民1500人を対象に実施した「生涯学習に関する市民意識調査」の結果をみると、市民の生涯学習に対する関心が非常に高いことが明らかになりました。
市民の2人に1人は、「この2~3年間に継続した学習経験がある」と答えています。
また、グラフIに見るように、"今後何かを「学びたい、習いたい」という気持ちがありますか"の問いに、「かなりある」と答えた人は37・8%で、「少しある」と答えた44・9%を合わせると82・7%に達しました。
そして、"その学習をどの程度深く学びたいと考えますか"の問いには、グラフIIのとおり、「日常生活に応用できる程度」と答えた人が過半数を超え、「専門的なレベルまで学びたい」と答えた人を合わせると7割を超えており、より質の高い学習を望んでいることがわかりました。
今後の生涯学習推進行政に対する市民の期待としては、グラフIIIのとおり、「教育・文化・スポーツ施設の充実とネットワークづくり」が40・3%、「学習情報の提供や相談体制の整備・充実」が25・3%と高い数値を指しています。

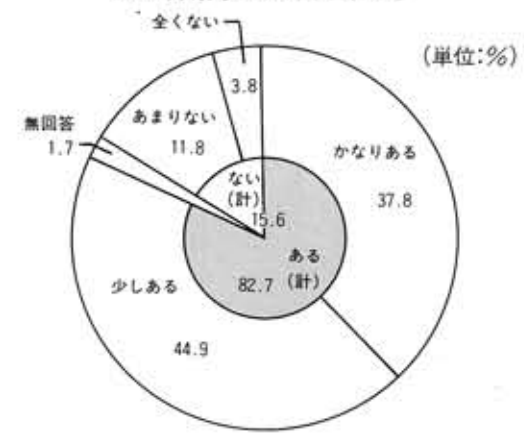
市民会館に設置されている「情報コーナー」

「いつ」「どこで」の情報を皆さんに

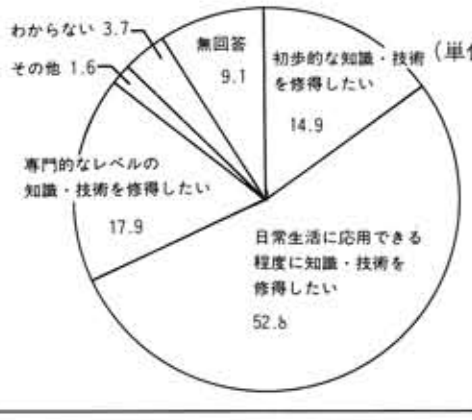
市では、定期的な「生涯学習通信」の発行や、市民会館内に「情報コーナー」を設置するなど、「いつ」「どこで」「どのような」学習ができるのかという、生涯学習に関する情報を市民の皆さんがいつでも得られる体制を整えています。
また、生涯学習の風土づくりの一環として、市民の皆さんに生涯学習について理解していただくために、「学び合う あなたが主役 生涯学習!」という冊子を作成しました。
今後も、市民の皆さんに対して実施した、アンケート調査の結果や、向日市生涯学習検討学識者会議(座長 国生寿同志社大学教授)によって、今年の3月に提言された「向日市における生涯学習の在り方」を基にして、生涯学習事業の情報提供や学習相談など、「市民の皆さん」と「生涯学習」をつなぐパイプ役として、生涯学習の推進事業に力を注いでいきます。

定期的に発行されている生涯学習通信

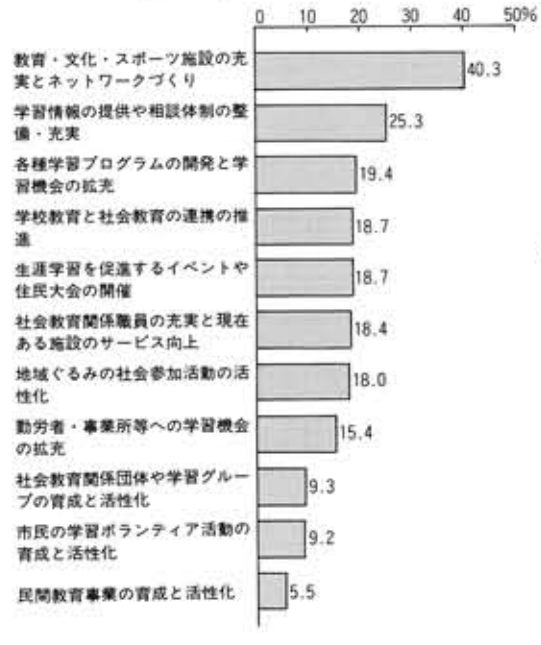
グラフI 問 今後何かを「学びたい、習いたい」という気持ちがありますか。



グラフII 問 最も参加したい学習について、どの程度深く学びたいと考えていますか。



グラフIII
問 仕事や日常生活に必要なことを学んだり、スポーツや文化芸術に親しむようにするため、今後、向日市ではどのようなことが大切だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



お問い合わせ
社会教育課(内線325)